

令和4年3月定例会会議録

(令和4年3月28日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 3 月定例会会議録

- 【開催日】 令和4年3月28日（月）
- 【場所】 八代市役所本庁4階 403会議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長
渡邊 裕一 教育委員
松永 松喜 教育委員
奥村 留美子 教育委員
早田 蛍 教育委員
- 【出席職員】 中 勇二 教育部長
橋口 幸雄 教育部次長
福本 桂三 教育部次長
松川 由美 教育部理事兼教育政策課長
高嶋 宏幸 学校教育課長
竹下 圭一郎 教育施設課長
田中 智樹 教育部理事兼生涯学習課長
入佐 正夫 教育サポートセンター所長
松村 哲治 博物館未来の森ミュージアム副館長
松本 豊 教育政策課主幹兼学校管理係長
瀧川 尚樹 学校教育課指導主事
- 【事務局】 草野 弥生 教育政策課教育政策係長
萩本 誠子 教育政策課主査
- 【審議事項】 <議案案件>
①八市教委議第16号 八代市立小・中学校遠距離通学費補助事業実施要綱の制定について
②八市教委議第17号 第3期八代市教育振興基本計画（案）について
③八市教委議第18号 八代市EdTech推進基本方針の一部改正について
- <報告案件>
①報告第5号 八代市議会令和4年3月定例会について
②報告第6号 令和3年度3月補正予算及び令和4年度当初予算の概要について
③報告第7号 八代市教育大綱（第3期）について
④報告第8号 八代市EdTech推進計画について

1. 開会 (午後 2 時 0 0 分 開会)
2. 会議録の承認 令和 4 年 1 月定例会
3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

4. 議題

〈八市教委議第 16 号〉 八代市立小・中学校遠距離通学費補助事業実施要綱の制定について

松川教育部理事兼
教育政策課長 小・中学校遠距離通学費補助事業を実施するに当たり複数ある根拠規定を統一した新しい事業実施要綱を制定する。

奥村教育委員 対象地区は、児童生徒数が少ない小規模校であるが、参考までに、対象となる子供たちは何人ぐらいいるのか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 坂本中学校については、被災をしているので、八竜小学校のスクールバスに乗っている生徒が多い。数人が乗合バスで通学している。

松本教育政策課主
幹兼学校管理係長 宮地小学校の対象者は、今年度 1 人、来年度 2 人。第八中学校は、今年度、来年度とも 1 人。坂本中学校は、災害前は J R や乗合バス、路線バスを利用しており、その当時の令和 2 年度は 27 人の対象者がいたが、今年度は、7 人、来年度も 7 人になっている。東陽中学校は、今年度 3 人、来年度 5 人で、こちらは自転車通学補助となっている。

奥村教育委員 第 3 条第 2 項第 5 号に「通学費に係る補助制度の提要を受けている」とあるが、他に補助制度があるのか。具体的にどのようなものがあるのか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 第 3 条第 2 項の第 1 号から第 3 号までに具体的な通学費用の補助がある場合を規定しており、この他に今後通学補助があった場合を制度上補充するものであり、現時点で他に何かあるかと言われると思い当たるものはない。

渡邊教育委員 別表第 1 の河俣の補助対象区域が「〃」となっているが、「全域」とするべきではないか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 「全域」に訂正する。

【議案第 16 号 承認】

〈八市教委議第 17 号〉 第 3 期八代市教育振興基本計画（案）について

松川教育部理事兼
教育政策課長 第 3 期八代市教育振興基本計画（案）について資料により説明

渡邊教育委員 素晴らしい内容になっているので、年度の早いうちに、校長園長会議で、概要説明と特に変更した点、追加した点があれば説明すると学校・園の先生方に伝わるので、そういう機会があるとよい。

早田教育委員 基本方針 1 8 災害からの復興推進・教訓の継承のところ
で、細かく 3 つに分けて、具体的に上げられている。(1) が地震に対する取組、(2) が豪雨災害による被災地への支援と取組とある。風水害についてあまり記載がないと感じた。どういう経緯から 1 番目に地震がきているのか。

草野教育政策課主
幹兼教育政策係長 当初案では、このように分けてはいなかったが、他の計画を参考にしなが
ら作成するに当たり、他の分野では平成 2 8 年の地震、令和 2 年 7 月豪雨それぞれの災害に特化して記載している計画があったので、その部分を参考にした。さらに、教育委員会としては、それらの災害を踏まえた取組をしないとイケないのでは、また、(3) の前段に学校安心メール等記載している部分があるが、地震や豪雨災害など大きな 2 つの災害以外の災害に共通する取組を記載したほうがいいのでは、ということで、3 つの括りでまとめた。委員が言われる風水雪害は(3)の全体に取り組んでいくという括りになる。今まで 2 つの災害があったので、それごとに分類している。

【議案第 17 号 承認】

〈八市教委議第 18 号〉 八代市 E d T e c h 推進基本方針の一部改正について

高嶋学校教育課長 八代市 E d T e c h 推進基本方針の一部を改正案について資料により説明

質問等なし

【議案第 18 号 承認】

〈報告第 5 号〉 八代市議会令和 4 年 3 月定例会について

中教育部長

3 月 8 日から 1 0 日までに行われた一般質問については、議員 1 0 人のうち 3 人の議員から教育部に対し次のとおり質問があった。資料により説明

①山本敬晃 議員

・ I C T 教育日本一に向けた本市の教育現場への支援について

②太田広則 議員

・ 本年 1 月からのコロナ禍における本市行政及び学校現場への影響について

③百田隆 議員

・ 学校給食への有機米導入について

質問等なし

〈報告第 6 号〉 令和 3 年度 3 月補正予算及び令和 4 年度当初予算の概要について

福本教育部次長

3 月 9 日及び 3 月 1 8 日に可決された主なものについて資料により説明

・ 令和 3 年度 3 月補正予算について（3 月 9 日可決分）

●学校教育訴訟関係事業

・ 令和 3 年度 3 月補正予算について（3 月 1 8 日可決分）

●八代市学校・子ども教育応援基金事業

●学校施設整備基金事業

●小学校非構造部材耐震化事業

●新型コロナウイルス感染症対策事業（学校給食）

●繰越明許費

・ 令和 4 年度当初予算

●いじめ対策等推進事業

● I C T 授業サポート事業

●新型コロナウイルス感染症対策事業（学校施設等感染防止対策）

●学校通学関係事業（小・中・特別支援学校）

●学校等施設非構造部材耐震化事業

●学校教材充実事業（小・中・特別支援学校）

- I C T教育推進事業
- 学校等施設トイレ改修事業
- 学校教育施設管理運営事業（給食センター）
- 学校・家庭・地域の連携協力推進事業
- 社会教育事業
- 生涯学習推進事業
- 自治公民館再建支援事業（豪雨災害）
- 博物館特別展覧会事業
- 博物館施設整備事業

奥村教育委員

学校・子ども教育応援基金というのがあったと思う。予算の割合を見たときに、3年度から4年度に向けて微増だが全体に占める割合が高くなっていてありがたい。まだまだお金が足りないのではないのか。基金が対象とする教育の事業は、本来の教育予算ですべきお金が足りないから、基金を使うということにはあまりならないのか。I C T教育日本一を県と市が掲げている。使えるようになったらよい。日本一の県・市になろうとするなら、特段の物も内容も人もスタート時にきちんとしていないと大変だろうと思う。そういったときに通常の教育に係るお金は、担当に1%でも予算確保をしてもらってというのがあがるが、日本一を目指すときには、特段の独創的な予算が要るなら、基金の出る幕ではないか。お金の使い方、配分について、そういうことも含めて、この7.1%というのは、足りているのか。低いところはもっと低くて、大変な事態だと思うし、高齢化が進む中、民生費が高くなっているが、ここにかかるお金と同様に、これからを担う子供たちにも同様にお金をかけないと健全な納税者が数多く育っていかないのではと思った。最終的に基金の今後の活用の方向性は、どういうふうに想定されているのか。

草野教育政策課主
幹兼教育政策係長

八代市学校・子ども教育応援基金は、毎年寄附をいただいて、個別の事業に活用している。通常予算が付かないような、個別の学校や各課から要望が上がったきめ細やかな事業を行うために年間150万円の枠を設けて事業を選定し、事業を行っている。平成30年に設立したときに、どのように運用していくかというルールを作った。最初に1000万円の寄附をもらって、一度に使わずに、基金に積み立てて、予算は財政課の査定が入って要望どおりにならないので、教育委員会で自由になる財源を確保して使える仕組みを作った。皆さんからの寄附をいただいて、運用しながら行うので、1300万円ほどの基金

を年間150万円の枠で要望を聞きながら事業を行っている。ふるさと八代元気づくり応援基金を使って事業を行っているものもあるが、学校・子ども教育応援基金は、寄附を財源としているので、使える事業は小規模の事業になってしまう。

福本教育部次長 7. 1%が少ないのではないかということだったが、今年の特徴的な部分を見てもらうと、7月豪雨の坂本地域の災害復旧費が大きく膨らんでいる。その中で構成比としてはどこも縮小となっている。今年は特にその影響があると考えてほしい。

中教育部長 以前からしっかり予算を獲得し、教育環境の整備をとということで予算の中の10%を目指してと委員の方々から言われている。市の予算の中では、民生費が多くなっている。義務的経費ということで、対象者が増えると増やさざるをえないという経費で他を圧迫している状況であるが、その中でどうやって確保していくか。

数年前エアコンを一斉に設置したときは、10%になった。大きなハード整備をやらない限り10%にはならない。これまでは、環境センターや新庁舎の建設があったので厳しかった。今後、環境関係の整備もあるので、その中で教育部はトイレ洋式化や非構造部材など大きな予算が必要であるし、給食センター、博物館などいろいろある。給食センターは20億円程度になる。毎年それを要求していくので、予算部局と相談しながら、今後計画的にやっていけるようにする。大物以外の経常予算は、シーリングで10%カットと言われており、その中で確保できない、学校が困っている、あればいいのにといいところに、寄附の基金を使っている。市が独自でお願いしている研究推進校などは、これまでに市からは何もなかったので消耗品費を出すなど、少しでも学校の頑張りに充てているところである。

松永教育委員 以前長い間、教育委員会にいたので知っている。職員の努力があつて、こういう結果が出ている。日頃の努力と工夫、知恵を出して、市長の公約の中に教育について入れてもらえるような努力をされている。それを考えたら、10年前よりはるかに要望が通る行政になりつつある。10年前は通らなかったもので、身近になってきたということだけでも、かなりの進歩である。感謝をしている。職員は頑張ってもらいたい。

渡邊教育委員 増減率が100を超えているのにびっくりしている。削減の積上げ、より良い事業の構築があつてからのことかと思つて、

相当な努力があったと思う。

ふるさと八代元気づくり応援基金は、八代市の基金か。どれくらいの額があって、また、ICT教育関係はこれを使われているが、どれくらいの割合を教育部が確保できているのか。

中教育部長

ふるさと納税でもらったものを積み立てている基金である。令和2年度、3年度に12、3億円ずつの寄附があった。返礼品や業者手数料があるので、その半分が市の使える金額である。基金に一旦積立てて、毎年それを崩していく。使い道が福祉や教育などいろいろ書いてあるが、結果的にその他ということで、何にでも使えるようになっている。どこの分野に使うかというのは、財政課の裁量になり、教育もその対象になっているので、必要な新規事業にはこちらの財源を充ててもらっている。

田中教育部理事
兼生涯学習課長

新規事業に3年間は、この基金を使って充当していく。教育の場合は、国庫などの補助事業が多く、八代市のルールでは、補助事業を使った残りには充てないことになっているので、一般財源のものに積極的に充てていく。今回充てられる事業を条例で拡大したため、このまま皆さんからの寄附が続けば、年間10億のうち半分は、使っていけると考えている。大変ありがたいものである。

奥村教育委員

努力していないというわけではなく、1%も増えているということから、基金が八代市らしい独創的な教育活動に使われるのか、というところで尋ねたところである。子供たちが育っていくには相当見えないお金、見えない気遣いがあると思う。

いじめ対策等推進事業の中で、総合質問調査をすることになっている。それをどう実施してどう活用するのかを考える。実態を把握するための調査となっている。問題は、調査をしたが、各学校がそれをどう分析し、どう考察し、その後どう活用するかが大きいと思う。この調査はどのように生かされるのか。

高嶋学校教育課長

総合質問調査(i-check)は、年1回、12月の県学力調査のときに学習状況調査として併せて行われていた。結果が出るのが1、2月と遅く、その1回では足りない。この調査は、嫌なことをされていないか、学級の規律ができていかなど子供の状況を質問することになるので、5月に一斉に調査をして、6月前に結果が来て、それを分析して、見えない課題を抱えている子供を把握するなどし、学級の規律、状況辺りでどう対応し

ていくかの取組を進める。12月にもう1回調査を実施し、どう変わったかを分析して、課題が残っているか、新たな課題があるかなどに対し、また手立てを行っていくということになる。1回目の5月の分を八代市独自で行い、県学力調査時で2回目をと考えている。

奥村教育委員 来年度からは毎年実施するのか。ある年度間やってみて傾向を探るのか。

高嶋学校教育課長 いじめ不登校は、大きな課題と捉えているので、毎年予算要求をして、毎年できたらと考えている。

奥村教育委員 最初の気づきは一番身近で授業をする担任の先生で、それが重要であるが、いろいろ煩雑になってくると、捉え方が希薄になる。このような調査があると改めて実態が把握できるということもあるが、逆に、調査結果だけを見て学校や先生方、教育関係機関が判断することがないようにしてもらいたい。先生一人一人が持つ気づく力、指導力を中心にして、調査結果は派生的に生かされるように進んだらいいと感じた。北海道のいじめ事件で、市教委が当初いじめと認定しなかった理由の一つに、本人がいじめの自覚認識がなかったからとあった。本人以外の周りの友達集団、関わりある担任や指導の先生がそれはおかしいと思う気持ち、共感する土壌があればと願う。そういうことにならないようにハードの調査物とソフトの先生たちの力量の両方で進むとよい。

〈報告第7号〉 八代市教育大綱（第3期）について

松川教育部理事兼 八代市教育大綱（第3期）案について、資料により説明
教育政策課長

質問等なし

〈報告第8号〉 八代市E d T e c h推進計画について

高嶋学校教育課長 八代市E d T e c h推進計画について資料により説明

早田教育委員 ネットワーク環境の整備について、先日植柳小学校で、タブレットを活用して、ハザードマップを見るという講座が行われた。1クラス35人程度が一斉に使うとネットが動かなかつ

た。30人以上の学級だとネットワークが遅いと聞いた。そうであると、授業中も動かないだろうし、同じ学年が好きな時にタブレットを使いたくても使えないという状況になると思う。聞き取り調査の課題で、「活用していない」は、「活用できない」というのもあるのかと思った。学校への聞き取り調査をもっとしっかりしたほうがいいのではないか。

高嶋学校教育課長 ICT授業サポーターが各学校を回っている。その時にいろいろな相談、質問が出て、その内容が記録で上がってくるようになっている。そういうところで上がってくるべきところではないかと思う。35人で使ったら、ネットワークが遅いというのは、場所とか関係があるのか。

早田教育委員 体育館で、国のハザードマップ、河川情報を見たが、全然見られなかった。

高嶋学校教育課長 場所によって、ルーターからの距離もあるのかと思う。

早田教育委員 担任の先生が言われていた。

松本教育政策課主幹兼学校管理係長 植柳小学校でネットワークが遅いという話は聞いていなかった。教育委員会は、10月からSINETという速い回線に切り替えて、実証実験を行っている。明日、また元の回線に戻る。学校は1ギガの大きな線で、インターネットに抜けている。40校あるので、40校集まって、1ギガで出る形である。学術情報ネットワークという大きなネットワークにつないで、4ギガで出るようになっていて、ネットの負荷がどのような感じか試してもらった。通常1ギガだが、一番多くても1.1ギガになったのが2回ほどだった。その1.1ギガを記録したのも、月1回のWindowsのアップデートがある朝に電源を入れたときだけだった。授業では、500メガ程度で、半分も使っていないという結果が出た。結論としては、今の使用状況ではネットワークには問題ないとなった。植柳小学校の体育館については、アクセスポイントとの距離があれば電波が弱くなって遅くなるという可能性はあるが、設置した時に業者がテストを行い、問題のない速度だった。仮に35人の生徒が動画のサイトを一気に見たとなると跳ね上がることが考えられるが、実際それでも動くという結果が出ているので違うところに問題があったのではないかと思う。

北岡教育長 この話については、学校とやりとりをして、改善すべき点があれば改善するように。

松本教育政策課主
幹兼学校管理係長 機器的なものに問題はないと思う。

高嶋学校教育課長 聞き取り調査を行う。

早田教育委員 素晴らしいものが動き出しているのに、活用できないともったいない。

渡邊教育委員 統合型校務支援システムが導入されて2年経つが、業務の効率化、先生たちの負担軽減など、どのような状況を把握しているか。

高嶋学校教育課長 公務支援システムにより、通知表などの記入する様式が入力するとできあがるので、効率化になっている。ミライムでは情報の共有ができるので、会議時間の省略・短縮ができています。出席状況の把握についても管理職が確実にこなせるようになっている。

瀧川学校教育課指
導主事 補足として、指導要録の電子保存をスタートしている。年度末に出力して押印をするという作業が省略できるようになった。初年度で、電子化による学校からの要望や意見があるので、システムの業者に伝えながら、改善をしていく。

奥村教育委員 出席簿の管理は、子供たちの出欠状況の把握等大切なものである。不登校傾向などについても、出席簿と保健日誌を見ながら、気づきに生かすことができた。欠席情報の中には、欠席日数だけでなく欠席の理由もわかるのか。

瀧川学校教育課指
導主事 管理者画面で、誰がどういう理由で何日休んでいるということがリストアップされているため把握することができる。

5. 連絡事項
- | | |
|------------|------------------------|
| 中教育部長 | 新年度の異動内示について |
| 学校教育課 | 校長連絡会議について |
| 教育サポートセンター | くま川教室閉級式について |
| 博物館 | 春季特別展覧会について |
| 事務局 | 4月定例会日程確認(4/26 14:00~) |

6. 会議録署名委員 渡邊委員・早田委員
の指名

7. 閉会 (午後4時29分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

記録者
